

〈論文〉

日本人中国語学習者の連体修飾助詞“的”の誤用について

蔣 新 桃

1 問題提起

日本人の中国語学習者はよくこのような文を作ったり、話したりしてしまうことがある。

①这个人是大学的老师。／この人は大学の先生です。

②你是今天转到我们的学校来的吗？／君は今日、僕たちの高校に転校してきたの。

③温暖春天终于来了。／暖かい春がやっと来た。

④我喜欢妈妈做便当。／母が作った弁当が大好きです。

以上のような誤用例が頻出する。日本語では、「大学の先生」、「僕の高校」のように名詞／代名詞と名詞の間に「の」をつけないといけないが、中国語に訳すと、“的”を省略して“大学老师”“我们学校”になる。一方、③④のように連体修飾語が形容詞と動詞（「暖かい春」、「作った弁当」）の場合、“的”が抜ける間違いも少なくない。“的”の用法について、「連体修飾の文法的標識」と「多項連体修飾の階層を示す」という二つの文法機能を持っている。普通には名詞を中心語として、名詞＋“的”＋名詞、形容詞＋“的”＋名詞、動詞＋“的”＋名詞のような構成が行われる。日本語の「の」は格助詞として、連体修飾語の後に付き、連体修飾語フレーズを作る働きがある。両国語において、名詞、形容詞（形容動詞）、動詞が連体修飾語となれる。そこで、中国語の“的”と日本語の「の」は共に連体修飾構造助詞として使われるという共通点があるため、置き換えやすいから、中国語教育の現場では“的”の誤用が多い。だが、中国語教育の現場で使用されているほとんどの教科書では、“的”は日本語の「の」によく置き換えられるが、修飾語が属性を表すものであったり、数量詞であったりする場合は省略できるとしか書かれていない。どんな場合に日本語の「の」に対応し、どのような場合に他の形の日本語に対応するのかについては説明されていない。そこで、本稿では、これらの問題を焦点とし、“的”と「の」の対応関係を明らかにしながら、日本人の中国語学習者が“的”をつけるべきところで“的”を抜いたり、抜くべきところに入れたりするような間違いをする原因について考察してみ

たい。

2 先行研究と研究方法

中国で“的”を体系的に研究した代表的な研究者は朱德熙(1961)である。彼は助詞“的”を文法機能から“的₁”, “的₂”, “的₃”に分けた。“的₁”は副詞の後に付く“的”であり, “的₂”は形容詞 R_a と R_b の後に付くのであり, “的₃”は名詞, 動詞, 形容詞の後に付き, 名詞的な構造であり, 日本語の「の」の連体助詞と準体助詞の文法機能を持っていることが分かる。しかし彼の研究は日本語の「の」の準体助詞の役割にあたる内容に偏っているようである。そこでは連体助詞の働きをしている“的₂”と“的₃”を中心に, 日本語の「の」とどのように関連しているのかを, 比較しながら考察している。

“的”と「の」の対照研究に関しては, 多くの研究が行われてきたが, 主に中国語母語日本語学習者を対象に, 日本語教育の面から, 「の」と“的”の対応・不对応について研究されてきた。例えば, 張麟声(2009)は修飾部とヘッド(被修飾部のことを指す)の意味関係を12ケースに分けて, 「の」と“的”の対応非対応が9種類あるとしている。また, 方美麗(2004)は日中対訳カードをデータベースに, 中国語の名詞につく“的”と日本語の名詞に付く「の」との表現の相違について, 8種類に分けて, 「具体名詞+具体名詞」の組み合わせから, その意味関係を分析している。これらの研究は修飾部が名詞の場合だけについて論じられていた。修飾部が動詞, 形容詞, 或いは複数の「の」がある場合の, 「の」と“的”の対応非対応については論じられていない。

また, 日本語教育の視点から中国人日本語学習者における「の」の誤用に関する研究(迫田1999, 奥野2003, 2005, 秦・丸田2006, 2007, 毛莉2014)も多く, 「の」と“的”を関連させながら, 主に「の」の過剰使用には母語の影響が大きいと結論づけている。だが, 中国語教育の視点から“的”の使用状況についての研究はあまりされていない。

そこで本稿では, 中国語教育の面から, 札幌大学および札幌大学孔子学院で中国語を一年間以上勉強している日本人学習者50人を対象とし, 連体修飾助詞“的”の使用状況をアンケートで調査し分析を試みた。中国語の“的”は日本語の「の」とどんな場合に対応し, どんな場合に対応しないのかを考察し, その共通点と相違点を指摘した上で, 日本人中国語学習者に見られる“的”の誤用の原因を追究していきたい。

本論文のアンケート調査は25題で, 下線部の日本語を中国語に訳す課題で, 単一選択型の回答形式を採る。調査項目は連体修飾を表す“的”と「の」の使い方に基づいて, 品詞の種類によって修飾語を名詞(代名詞), 形容詞(形容動詞), 動詞, 「の」が複数ある

連語に分けて作成するものとした。修飾語が名詞である場合、張麟声（2009）の分類によって例文を作った。更に張の分類にない形容詞、動詞、連語の場合については、自分の学習経験から、中国語学習者が間違いやすいところを推測して、調査の例文を作った。各調査項目の“的”の誤用率は次の図1のとおりである。

図1 各調査項目の“的”の誤用率

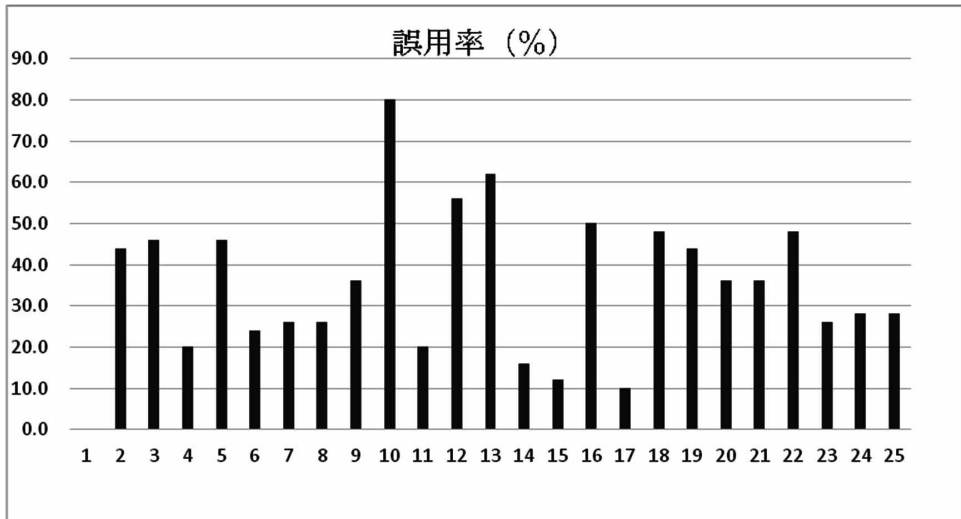


図1から、日本語では「の」が入る表現をその中国語訳で“的”を入れる人と日本語では「の」を抜く表現をその中国語訳で“的”を抜く人、つまり日本語と同じ構造を選択する人の比率が多いことが分かる。言い換えると、日本人中国語学習者は中国語を勉強する時、母語の影響を受けていることになる。そこで本論ではアンケート調査の結果を基に、中国語の“的”と日本語の「の」との対応・不对応について分類し、第二言語習得過程における各調査項目の“的”の誤用をおかす要因として、「過剰一般化による誤り」、「母語転移による過少使用」、「複雑な修飾語の語順による誤り」の三つに分け、考察してみようと思う。

3 第二言語習得過程における“的”の誤用

3.1 過剰一般化による誤り

第二言語習得過程において、学生がある言語項目の規則を過度に一般化することを過剰一般化と言う。学生は最初、ある文法規則を学ぶと、その文法規則から類推した表現をし、その結果、過度な類推を生んでしまう。“的”の使用について、日本人学習者が最初

に習得するのは名詞と名詞の間に付いて、領属関係を表す“的”（她的包，京都大学的校园）であったり、存在場所か時間を表す修飾部（対面的女性，昨天的地震）であったりする。これらの構造は比較的正確に把握できるので、この“的”のある修飾構造を把握すると、それを使ってその他の成分にまで拡大する。結局，“的”を入れることができないところにまで拡大することになり、誤用が生まれる。“的”の過剰一般化は修飾語が名詞である場合に，“的”の不要と準必須の2ケースに分けられる。

3.1.1 「の」の必須に対して，“的”の不要

日本語では「の」を使うが、中国語に訳す時“的”を付けないケースの以下の5種類が挙げられる。

3.1.1.1 修飾部がヘッ드의素材である場合

アンケートの(2)と同じように、前項名詞は材料名で、後項名詞は物の名前であり、どちらも普通名詞である。日本語では、「の」は必須であるが、中国語では“的”を使わない。例えば：

- | | |
|---------------|---------|
| 1 銀のネックレス | 1' 银项链 |
| 2 シルクのハンカチ | 2' 丝绸手帕 |
| 3 プラスチックのテーブル | 3' 塑料桌子 |

図1によるとこのケースに当たる“的”の過剰使用率は44%である。この結果から見ると、この場合の“的”を十分習得しているとは言えないだろう。これは日本語の干渉を受け、過度な拡大による誤用だと考えられる。

3.1.1.2 修飾部とヘッ드가全体と部分の関係で結ばれている場合

アンケートの(5)番のように、前項名詞（車）と後項名詞（窓）が全体と部分の関係で結ばれていて、前項名詞は普通名詞、つまり定指示でなければ、後項名詞が普通名詞である場合、中国語では“的”を付けない。また、(14)番のように、前項名詞（先週）も後項名詞（日曜日）も時間を表す名詞で、前項名詞（先週）と後項名詞（日曜日）が全体と部分の関係で結ばれている場合、日本語においては「の」を使うが、中国語では“的”を入れればくどい表現になる。

- | | |
|----------|---------|
| 4 木の葉 | 4' 树叶 |
| 5 豚のしっぽ | 5' 猪尾巴 |
| 6 指の爪 | 6' 手指甲 |
| 7 明後日の午後 | 7' 后天下午 |
| 8 去年の夏 | 8' 去年夏天 |

調査によると、(5)番も過度な拡大使用による誤用率が高く、46%に達しているのに

対して、(14) 番の誤用率はかなり低く、16% になっている。これは (14) 番の「先週の日曜日（上周星期天）」が普段よく使われる表現だからではないかと考えられる。

これに対して、修飾部が固有名詞や人称代名詞、つまり定指示であれば“的”を使わなければならない。アンケートの (4) 番「鈴木さんの体重」は“鈴木_的体重”に訳される。この場合、日本語と同じ組み合わせであるから、誤用はある (20%) が、全体的によくできている。例えば、次のような例がよく見られる。

- | | |
|----------------|---------------|
| 9 私の足 | 9' 我的脚 |
| 10 『義勇軍進行曲』の歌詞 | 10' 义勇军进行曲的歌词 |
| 11 あなたの資質 | 11' 你的资质 |

3.1.1.3 修飾部がヘッドの性質、属性である場合

このケースはアンケートの (10) 番と (16) 番のように、前項名詞（冬休み、男）が後項名詞（宿題、靴）の属性を表し、どちらも普通名詞である。この場合、日本語では、「の」は必須であるが、中国語では“的”を使わない。例えば：

- | | |
|-----------|----------|
| 12 電車の切符 | 12' 火车票 |
| 13 日本人の友達 | 13' 日本朋友 |
| 14 小学校の先生 | 14' 小学老师 |

以上のような例は日本語母語中国語学習者が間違いやすいケースの一つである。13' の“日本朋友”の“日本”は“朋友”が日本人であることを示し、“朋友”の中味（属性）を説明している。だが、“日本の朋友”の“日本的”は、“朋友”が“日本”にとってのものである。つまり“日本”と“朋友”が「所有関係」にあることを言うのみで、“朋友”の中味については語っていない。アンケートの (10) と (16) も同じように説明できる。「冬休み」と「男」はそれぞれ「宿題」と「靴」の属性であり、「冬休みに属する宿題」と「男に属する靴」の「所有関係」ではない。

調査によると (10) 番と (16) 番の“的”の誤用率はそれぞれ 80% と 50% になり、結果から見ると一番混乱していることが分かる。つまり、前項名詞が後項名詞の性質、属性である場合、日本語は「の」が付くのに対して、中国語は“的”が不要であり、“的”をつけると不自然な中国語となる。その影響を受けて、「大学の先生」、「歴史の本」を「大学的老师」「历史的书」と間違い、“的”を使う誤用が多いようである。

3.1.1.4 修飾部がヘッドと同格関係を表す場合

このケースは前項名詞と後項名詞の関係を表し、後項名詞を具体的に説明することになる。前項名詞は一般に資格、職位、身分を表す普通名詞で、後項名詞は人の名前のような固有名詞である。アンケートの (12) の「友達の田中さん」のように、日本語においては「の」

が必要であるが、中国語では“朋友田中”となり、“的”は不要である。図1で示しているように、この場合の“的”の誤用率は56%であり、これも“的”の過剰使用例である。

- | | |
|--------------|------------|
| 15 弟の次郎 | 15' 弟弟次郎 |
| 16 弁護士の田中さん | 16' 律师田中 |
| 17 被害者の美智子さん | 17' 被害者美智子 |

3.1.1.5 修飾部が数詞である場合

この場合、前項名詞は数詞や助数詞フレーズであり、後項名詞は普通名詞である。日本語では、「の」は必須であるが、中国語では“的”を使わない。例えば、アンケートの(15)番「三人の友達」は“三个朋友”になる。

- | | |
|-----------|------------|
| 18 三足の靴 | 18' 三双鞋 |
| 19 二番目の彼氏 | 19' 第二个男朋友 |
| 20 三人目の子供 | 20' 第三个小孩 |

図1の結果によると、このケースに当たる“的”の過剰使用率は12%である。これは修飾部が数詞である場合の“的”の省略について、中国語の教科書に明確に提示されているから、誤用はあるが、全体的によくできているのではないかと考えられる。これに対して、アンケートの(8)番「100平方メートルの部屋」の中国語訳は“100平方米的房子”である。なぜかと言うと、この時の数量詞は数を示すより、状態を表しているのである。例えば「15歳の少女」が“15岁的少女”となることと同じである。修飾部が数詞である場合の“的”の省略使用の影響で、(8)番でも“的”を抜かしてしまい、36%の誤用率になってしまうのだろう。

3.1.2 「の」の必須に対して、“的”の準必須

3.1.2.1 修飾部がヘッダの模擬所有者である場合の、被修飾部が代名詞の時

模擬所有者とは、前と後ろの名詞が身内、社会的な人間関係、所属の組織体を表す時に、前者が後者の所有者とは言えないから、そのような関係に近い言い方として、名付けたものである。前項名詞は組織体の名前のような固有名詞或いは人の名前か、人称代名詞で、後項名詞は普遍名詞である。前項名詞が組織体の名前のような固有名詞或いは人の名前である場合、日本語では「の」が欠かせないものであるように、中国語でも“的”は必須で省略できない。アンケートの(11)「田中さんの友達」は中国語で“田中的朋友”になる(20%の低い誤用率は日本語と同じ構造であろう)。また、次の例も同じように日本語の「の」と同様“的”が付く。

- | | |
|--------------|-----------|
| 21 小野さんのお父さん | 21' 小野的爸爸 |
|--------------|-----------|

22 北京大学の学生

22' 北京大学的學生

23 鈴木さんの学校

23' 鈴木的学校

ところで、前項名詞が人称代名詞であれば、中国語では“的”が必要ではない。アンケートの(2)の「彼らの会社」は中国語に訳すと、普通“他们公司”に訳される。日本語の影響を受け、“他们的公司”を選ぶ人は44%を占めていて、全体的に弱く、まだ理解されていないところであると考えられる。一方、24, 25, 26のように“的”を省略して、“我爸爸”、“他学生”、“他们学校”で表現される場合と、省略しない場合が有り得る。

24 私の父

24' 我爸爸

24" 我的爸爸

25 彼の学生

25' 他学生

25" 他的学生

26 彼らの学校

26' 他们学校

26" 他们的学校

“的”の有無は文の意味関係により異なるのである。中国語の名詞連接において被修飾部の前の“的”が省けるかどうかは、張敏(2008)の「譲渡理論」(譲渡については権利・財産・法律上の地位などを、他人にゆずりわたすこと。有償・無償は問わない。“的”が省略され得るのは譲渡不可能名詞である)で説明される。例えば、修飾部がヘッ드의所有者である場合、「の」が必須で、“的”も使わなければならない。アンケートの(1)の「彼女の鞆」(調査による正確率は100%)は中国語では“她的包”になる。「譲渡理論」によると、“她的包”の場合、他人に譲渡できるから、“的”が省けない。だが、“我爸爸”、“他学生”、“他们学校”については、譲渡できないから省略され得る。また、“我爸爸”、“他学生”と“我的爸爸”、“他的学生”両方とも言えるが、重点の置き方が異なっているのである。例えば“我爸爸回家了”と“我的爸爸回家了”の区別は、前者は焦点が“回家了”にあり、後者は焦点が“我的”にあり、ほかの誰のお父さんでもなく、「私の」であるというニュアンスを表している。つまり、文の中では“的”の有無が文意に影響すると言える。

3.1.2.2 ヘッドが修飾部との位置関係を表す場合

この場合、前項名詞は基本的に普通名詞あるいは固有名詞で、後項名詞は方位を表す「前」「後ろ」「上」「下」のような「相対名詞」である。アンケートの(9)番「机の上」の場合、中国語訳は「桌上」になり、“的”は不要である。だが、言語表現はさまざまで、27", 28", 29"のように、“的”を付けても誤用とは言えないケースも多い。例えば以下のような表現はどちらも誤用とは言えない。

27 学校の向こう

27' 学校对面

27" 学校的对面

28 箱の中

28' 箱子里

28" 箱子的里

29 私のそば

29' 我旁边

29" 我的旁边

調査の結果から見ると、(9)番の中国語訳で“的”を付ける人は56%であり、誤用が

多くなる傾向が見られる。

3.1.2.3 修飾部がヘッドの出身地か原産地である場合

この場合は、アンケートの(13)番のように、一般に前項名詞は出身地(日本)か原産地を表す固有名詞で、後項名詞は普通名詞(女性)である。日本語では、「の」が一般的には入れられるのに対して、“的”は普通省かれる。例えば：

30 北海道の人	30' 北海道人
31 中国の学生	31' 中国学生
32 ドイツの車	32' 德国车

“日本的な女性”，“中国的な学生”，“德国的な汽车”のように“的”を入れても構わないが、引き締まった感じはなくなる。

調査の結果を見ると、修飾部がヘッドの出身地か原産地である場合は全体的に弱く、まだ理解されていないところであると考えられる。日本語の影響で過度な拡大使用による誤用率は高く、62%である。

3.2 母語転移の作用による回避使用

Odlin (1989:36-38) は、負の転移に関して、過少生成、過剰生成、誤生成、誤解釈の四つに下位分類している。過少生成とは、第一言語と第二言語の言語的差異が大きい場合、第二言語を使用する際にその差異がある言語項目をあまり使用しないことを指し、回避とも呼ばれる。本稿での回避使用は、日本語では形容詞(形容動詞)、動詞(動詞フレーズ)と名詞を結ぶ時、「の」は用いないから、日本人中国語学習者がこれらのケースを中国語で表現する時、母語の干渉で“的”も使わないことになることを示す。

アンケートの(18)番と(20)番はそれぞれ“明亮的な房间”，“喜欢的な运动”になる。アンケートの結果を見ると、“明亮な房间”と“喜欢运动”を選ぶ人はそれぞれ48%と36%である。項目が同じ性質に属するのに、正解率の差が大きいということによって、正用と誤用が同時に存在していることも分かってくる。だが、(17)「冷たい水」は“冷的な水”ではなく、“冷水”になる。この(17)の正確率は高く、90%になっているのは日本語の正の転移によるものと思われる。実は中国語では形容詞(形容動詞)が連体修飾語となる場合、その後ろに“的”を添えなくてはならない場合とそうでない場合がある。一般に単音節(漢字なら1字)の形容詞の時には“的”をつけないが(“冷水”，“好人”)、2音節(或以上)の形容詞(形容動詞)の時には“的”をつける(“明亮的な房间”，“喜欢的な运动”)。修飾語である単音節の形容詞の前に“很，挺，怪(ものすごく)，非常”などの程度副詞が付いている時(とてもいい先生)，必ず“的”を必要とする(很好的な老师)。

33 悪い人	33' 坏人
34 白い胡蝶	34' 白蝴蝶
35 とても白い胡蝶	35' 非常白的蝴蝶
36 おいしい飴	36' 好吃的糖果
37 真っ赤な太陽	37' 红通通的太阳
38 すっきり綺麗な部屋	38' 干干净净的房

また、例(21)のように、修飾語が動詞(動詞フレーズ)の時、中国語に訳すと、“借的书”のように、動詞「借りた」と被修飾語「本」の間に“的”を入れる必要がある(“借的书”)。同様に、(22)の「優れる」は日本語では動詞であるが、中国語では形容詞として使われるが、連体形の「優れた」と被修飾語「作品」の間に“的”が必要である(“优秀的作品”)。例えば:

39 野菜を買うお金	39' 买菜的钱
40 来る人	40' 来的人
41 日本へ行く旅	41' 去日本的旅行

図1の結果を見るとこの二つのケースに当たる“的”の誤用率はそれぞれ36%と48%であり、日本語の負の転移の影響で、全体的に弱く、あまり使いこなしていないと考えられる。中国語は語尾変化のない孤立語であるから、日本語と同じように「連体形」や「連用形」などのような形は存在せず、助詞“的”がその機能を担っているからであろう。

一方、「学習」、「教育」、「侵略」のように行為を表す語は、意味が抽象的であるために、動詞としてより、名詞としての意識が強く出るため“的”を必要としない。例えば:「学習計画」、「教育制度」、「侵略戦争」などある。しかし、日常生活用語に属する動詞は名詞と二つの品詞にまたがらず、具体的な動作を表しているため、多く“的”をつける。

以上述べたように、日本語では、形容詞(形容動詞)、動詞(動詞フレーズ)の後に直接被修飾語が続き、間に“的”にあたる「の」がない。従って、母語の干渉で日本人中国語学習者は以上のケースには“的”の回避使用がよく見られる。中国語に現れている誤りは、明らかに母語日本語の負の転移の影響がある。

3.3 複雑な修飾語の語順による誤り

一つの名詞に二つ以上の連体修飾語がつく時に一定の順序がある。大よそ次の二点にまとめられる。

第一、“的”を持つ連体修飾語は“的”を持たない連体修飾語よりも前に置かれる。例えば、“小瓷的茶壶”とは言えず、“瓷的小茶壶「磁器製の小型急須」”としか言えないということである。ただし、数量詞は“的”を伴わないが“的”を持つ連体修飾語の前に置いても

よい（「一张崭新的桌子」「一つの新しい机」）。当然“崭新的桌子”（「新しい一つのテーブル」）とも言える。また所有関係を示す連体修飾語は“的”がなくても前にしか置けない。例えば，“中国最高的山（「中国の一番高い山」）」は言えるが，“最高的中国山”は言えない。

第二、連体修飾語がいくつかある場合には、一般的な語順は、①文、②時間、場所、所有所属関係を表す名詞・代名詞、③指示詞、④数量詞、⑤動詞あるいは動詞句、⑥形容詞・形容動詞、⑦所有所属関係を表さない名詞、⑧中心語となる。例えば：アンケートの(24)“内容贫乏的新教育制度”（「内容の貧弱な新しい教育制度」）に，“内容贫乏”は①で、つまり「内容が貧弱である」という文であり，“新”は⑥であり，“教育”は⑦である。「内容が貧弱な制度」＋「新しい制度」＋「教育制度」は中国語の文で表現すると，“内容贫乏的新教育制度”となる。“的”の使用規則は前述された連体修飾語が形容詞（形容動詞）である場合、2音節の時には“的”をつけて（“内容贫乏的的制度”）、単音節の時には“的”をつけない（“新制度”）のである。また、アンケートの(25)“昨天买的那三支百乐牌钢笔”（「昨日買ったあの三本のパイロットの万年筆」）に，“昨天买”は①であり，“那三支”は③＋④，“百乐牌”は⑦である。「昨日買った万年筆」＋「あの万年筆」＋「三本の万年筆」＋「パイロットの万年筆」は中国語で表現すると、それぞれ“昨天买的钢笔”＋“那支钢笔”＋“三支钢笔”＋“百乐牌钢笔”となり、文になると“昨天买的那三支百乐牌钢笔”となる。つまり，“的”の省略規則は前述された規則（3.1.1と3.1.2）と同じなのである。中国語の“的”は、日本語の「の」と異なり、連続使用を好まない傾向が強く、修飾語と中心語の間に“的”が省略される。膠着語の日本語は助詞の助けがないと文として成立しないが、孤立語の中国語はそれとは異なり、日本語ほど助詞の“的”に依存していないのであろう。

更に日本語では連体修飾語の名詞がいくつか連続しても、必ずすべての名詞と名詞の間に「の」をつけなければならない。しかし、中国語では、いくつか名詞が結合するとき、その名詞の間に“的”が全部つくのではなく、文脈により省略する傾向が見られる。

アンケートの(23)「自分の仕事の優越性」は中国語で“自己工作的优越性”になる。“自己工作的优越性”には以下のような形成過程があると考えられる。

“自己的优越性”＋“工作的优越性”⇒“自己工作的优越性”

つまり，“自己”と“工作”が“优越性”を修飾している。“优越性”はフレーズの中心となっていることが考えられる。つまり、焦点が最後の名詞“优越性”に置かれているのである。つまり日本語で「の」が複数使われる場合に、中国語では“的”が中心語の前だけに付くのである。例えば、「全工場の職員の生産積極性」も同じように、焦点が最後の名詞“生産積極性”にあるから、一つ目の“的”が付いていなくて、“全厂职工的生产积极性”となる。

また中国語の“的”が使用されないケースもある。例えば：

- | | |
|--------------|------------|
| 42 われわれの次の世代 | 42' 我们下一代 |
| 43 鞏愛華の家の傍 | 43' 巩爱华家旁边 |

朱德熙（1981）は、名詞が名詞を修飾する修飾構造において、単独に取り出された場合には必須である“的”の使用が、より大きな構造に包含されると任意的になる現象を指摘した。“的”の使用・不使用については、任意的であることが、研究者をいかに悩ませるかがわかる。つまり、日本語の「の」が連続して出る場合、「の」は欠かすことができないが、中国語の場合、“的”の使用・不使用は任意となるのである。

アンケート調査の（23）、（24）、（25）番の正確率はそれぞれ26%、28%、28%である。この結果から見ると、“的”を十分習得しているとは言えないだろう。日本人中国語学習者は“的”の連続使用を避けることにあまり慣れていないことが分かった。前述したように、日本語では「の」が連続して使われても全ての「の」は必須であるが、中国語の場合、“的”の使用・不使用は任意なのである。

4 今後の課題

以上、日本人中国語学習者における連体修飾助詞“的”の誤用について、調査のデータを収集し、日本語の「の」と関連させながら、中国語教育の視点から“的”の誤用とその要因を考察した。そこには次の三つの種類の誤用が見られた。

1) 過剰一般化による誤り：日本語では名詞と名詞の間に「の」が必須であるのに対して、“的”は不要と準必須の2ケースに分けられる。その影響を受けて、例えば「金的耳环」、「寒假的作业」といった誤用が見られる。

2) 母語転移の作用による回避使用：日本語では連体修飾語が形容詞（形容動詞）、動詞（動詞フレーズ）である場合、連体形を持つ日本語では「の」は不要であるのに対して、中国語では“的”をつける場合（2音節（以上）の形容詞（形容動詞）と動詞（動詞フレーズ）で名詞を修飾する）とつけない場合（単音節の形容詞で名詞を修飾する）がある。日本人中国語学習者の多くが母語の干渉で“的”が必要であるのに使わないミスを犯し、「好きなスポーツ」、「借りた本」を“喜欢运动”、“借书”のような中国語にしてしまうのである。

3) 複雑な修飾語の語順による誤り：一つの名詞にいくつかの連体修飾語が付く時には一定の語順がある。中国語の“的”は、日本語の「の」と異なり、多く付けると不自然になるため、できるだけ少なくしようとする傾向がある。それに、“的”の使用・不使用は任意である。この点で日本人中国語学習者にとって、“的”の習得は非常に難しいところ

である。

以上で分析したように、中国語の“的”と日本語の「の」は対応するものと対応しないものがあることが分かった。日本人中国語学習者は、中国語では“的”が多用されているような印象を持っているようである。日本語の「の」はいったいどこまでつければいいか、また中国語の“的”をどこまで省略すればいいのかが問題となる。一方、日本語の形容詞(形容動詞)や動詞と違い、中国語には連体形の活用がないため、名詞を修飾する場合、そのまま“的”をつけることになる。日本と中国は同じ漢字圏の国だから、どうしても母語干渉は避けられない。だから学習者は「の」と“的”を混乱してしまうのであろう。教育現場でどのように教えれば、“的”をよりよく習得させることができるかをこれからの課題にしたい。

参考文献

- 于飛 (2010)「日本語助詞『の』と中国語助詞『的』の比較対照研究 ——連体修飾構造と用法」『人文研究』神奈川大学人文学会編第 172 号, pp.81-114.
- 于飛 (2011)「中国語構造助詞『的』の歴史的変遷 ——表記と構造から考える——」『言語と文化論集』神奈川大学大学院外国語学研究科第 17 号, pp.149 - 168.
- 奥野由紀子 (2003)「上級日本語学習者における言語転移の可能性 ——『の』の過剰使用に関する文法性判断テストに基——」『日本語教育』第 116 号, pp.79-88.
- 奥野由紀子 (2005)『第二言語習得過程における言語転移の研究—日本語学習者による『の』の過剰使用を対象に』風間書房.
- Odlin, T. (1989) "Language transfer: cross-linguistic influence in language learning" Cambridge, New York: Cambridge University Press. pp.36-38.
- 金春子 (1991)「中国語の助詞『的』と日本語の助詞『の』の同異点について」『福井工業大学研究紀要』福井工業大学第一部第 21 号, pp.97-101.
- 迫田久美子 (1999)「第二言語学習者による『の』の付加に関する誤用」『第 2 言語としての日本語の習得に関する総合研究』(科学研究費補助金研究成果報告書 課題番号 08308019), pp.327-334.
- 秦明星・丸田忠雄 (2006)「第二言語習得と母語の影響について ——年少学習者の助詞『の』の過剰使用と過少使用——」『山形大学紀要人文科学』山形大学第 16 巻第 1 号, pp.100 - 114.
- 秦明星・丸田忠雄 (2007)「『の』の過剰使用と『的』の影響 ——1 音節と 2 音節形容詞の調査——」『山形大学紀要・人文科学』山形大学第 16 巻第 2 号, pp.48 - 56.
- 杉村博文 (1997)「名詞性連体修飾語と構造助詞“的”」『大河内康憲教授退官記念中国語学論文集』東方書店, pp.279 - 302.
- 孫淑華 (2004)「中国語の『的 (de)』と日本語の『の』の対応と非対応」『鳥取大学大学教育総合センター紀要』鳥取大学第 1 号, pp.1 - 6.
- 寺村秀夫 (1982)『日本語シンタクスと意味 I』くろしお出版.
- 張麟声 (2009)「名詞にかかる連語的修飾構造の日中対照研究 ——『の』と“的”の使用の有無を中心に——」『言語文化学研究 言語情報編』大阪府立大学人間社会学部言語文化学科第 4 号, pp.23-36.
- 張麟声 (2001)『日本語教育のための誤用分析 ——中国語話者の母語干渉 20 例——』スリーエーネットワー

ク.

- 張麟声 (2011) 「日本語を母語とする中国語学習者の『的』の過剰使用について (1) ——連体修飾マーカの日本語中国語双方向習得研究の立場から——」『言語文化学研究 言語情報編』大阪府立大学人間社会学部言語文化学科第6号, pp.1-15.
- 張敏 (2008) 「自然句法理論と漢語語法象似性研究」『当代語言學理論和漢語研究』商務印書館.
- 方美麗 (2004) 「中国語の『的』と日本語の『の』の意味用法の考察 ——日中対照研究——」『外国語教育論集』筑波大学外国語センター第26号, pp.99 - 103.
- 毛莉 (2014) 「中国人日本語学習者における『の』の誤用につて」『国文白百合』第45号, pp.88 - 104.
- 森田良行 (2002) 『日本語文法の発想』ひつじ書房.
- 盧濤 (2006) 「中国語助詞の誤用分析」『広島外国語教育研究』広島大学外国語教育研究センター第9号, pp.139-154.
- 朱德熙 (1961) 「説“的”」『中国語文』第12号, pp.1 - 15.
- 朱德熙 (1978) 「“的”字結構和判断句」『中国語文』第1・2期, pp.23-27, pp.104-109.
- 朱德熙 (1978) 「“的”字結構和判断句」について ——中国語の格・複合名詞句及び疑似分裂文」『人文研究』大阪市立大学文学部, pp.54 - 66.
- 朱德熙 (1982) 『语法讲义』商务印书馆.
- 楊凱榮 (2011) 「日中連体修飾節の相違に関する考察」『漢日語言対比研究論叢 2』北京大学, pp.1 - 32.

付録 アンケート調査用紙

文の中の下線の正しい中国語訳を一つ選んでください。

1. 彼女の鞆は大きい。 ア 她的书包 イ 她书包
2. 金のイヤリングを買った。 ア 金的耳环 イ 金耳环
3. 彼たちの会社は有名です。 ア 他们的公司 イ 他们公司
4. 鈴木さんの体重は 55 kg です。 ア 铃木的体重 イ 铃木体重
5. 車の窓を開けて！ ア 车的窗户 イ 车窗
6. 向こうの女性は田中さんです。 ア 対面的女性 イ 对面女性
7. 昨日の地震は怖かったです。 ア 昨天的地震 イ 昨天地震
8. 100 平方メートルの部屋を想买たい。 ア 100 平方米的房子 イ 100 平方米房子
9. 机の上に本がある。 ア 桌子的上面 イ 桌上
10. 冬休みの宿題をやりました。 ア 寒假的作业 イ 寒假作业
11. この人は田中さんの友達です。 ア 田中的朋友 イ 田中朋友
12. この人は友達の田中さんです。 ア 朋友的田中 イ 朋友田中
13. 日本の女性は美しいです。 ア 日本的女性 イ 日本女性
14. 先週の日曜日は東京へ行きました。 ア 上周的星期天 イ 上周星期天
15. 三人の友達が来た。 ア 三个人的朋友 イ 三个朋友
16. 男の靴はスニーカーで十分。 ア 男人的鞋 イ 男鞋
17. 冷たい水を飲みたい。 ア 冷的水 イ 冷水
18. 明るい部屋ですね。 ア 明亮的房间 イ 明亮房间
19. 彼はとてもいい先生です。 ア 很好的老师 イ 很好老师
20. 好きなスポーツはサッカーです。 ア 喜欢的运动 イ 喜欢运动
21. 図書館から借りた本は面白いです。 ア 借的书 イ 借书
22. これは優れた作品です。 ア 优秀的作品 イ 优秀作品
23. 彼は自分の仕事の優越性を数え立てています。
 ア 自己的工作的优越性 イ 自己工作的优越性 ウ 自己的工作优越性
24. 制定了内容贫乏の新教育制度。
 ア 内容的貧弱な新しい教育制度 イ 内容的貧弱な新しい教育の制度
 ウ 内容貧弱の新しい教育制度
25. 昨日買ったあの三本のパイロットの万年筆はなくなった。
 ア 昨天买的那三支百乐牌钢笔 イ 那三支昨天买的百乐牌钢笔
 ウ 昨天买那三支百乐牌的钢笔